キャラクター名: Douze(12)

プレイヤー名:

シンドローム	ブラックドッグ ブラックドッグ	ワークス	暗殺者	カヴァー	観光客？
オプショナル		年齢	60↑or若者	性別	男？
覚醒	感染	衝動	殺戮	初期侵食率	39 %
出自	犯罪者の子	経験	伝説	邂逅	峰崎　鷹司

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	0	0			4
感覚	2	1	0			3
精神	2	0	0			2
社会	0	0	0	1		1

HP	65
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	4		ＲＣ			交渉		
回避			知覚			意志			調達		
運転：	2		芸術：			知識：	2		情報：裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
レイジングシューター	射撃	3r+2	ー	10/15		マイナーでモード変更

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
【11】秘密兵器/トイボックス	P	N		
峰崎　鷹司	P　友情	N 無関心		
霧谷　雄吾	P　傾倒	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
アタックプログラム	7	2	メジャー	武器	ー	対決	ー	
効果：	命中判定＋Lv×2							
ハードワイヤード：ロックオンサイトX3	3	ー	常時	ー	ー	ー	ー	
効果：	射撃命中判定＋Lv×2							
ペインエディター	7	ー	常時	至近	自身	自動成功	ー	
効果：	HP最大値Lv×5							
自動体内式除細動器	1	4	オート	至近	自身	自動	リミット	
効果：	戦闘不能時HP1回復、1回/1S							
雷神の降臨	5	6	セットアップ	至近	自身	自動	100%	
効果：	攻撃力＋Lv×5、行動値0							
雷鳴の申し子	1	5	メジャー	ー	ー	対決	ピュア	
効果：	攻撃力＋（最大HP－現在のHP）、終了時死亡、Lv回/1S							
バリアクラッカー	1	4	メジャー	武器	ー	対決	80%	
効果：	ガード・装甲値無視、Lv回/1S							
サードウオッチ	1	2	オート	至近	自身	自動	ー	
効果：	シーンに登場せず							
セキュリティカット	★	1	メジャー	至近	効果参照	自動	ー	
効果：	セキュリティやロックを外す							
電波障害	★	ー	メジャー	視界	シーン	自動	ー	
効果：	あらゆる無線を遮断							
効果：								
効果：								
効果：								

巷を騒がせる暗殺専門のフリーのイリーガル。もともとは60年ほど前から活動を続けるフランス圏で活躍していた暗殺者。数々のターゲットを遠距離からの射撃で殺す、という絵にかいたようなアサシンっぷりであり、科学の進歩による操作技術の向上と監視カメラなどの普及による管理社会化されつつあったヨーロッパにおいて、彼の犯行を防ぐは愚かその姿を見つけられたものもいない。何が由来なのかは不明であるが、その国々の「12」を意味する言葉、またはそれを暗示するものことなどが呼び名に使われることが多かった。しかし、この世界において人が一発の弾丸で死ぬという常識が世界に飛散するレネゲイドウイルスによって書き換えられるとともに裏社会から彼の名前を聞く機会はなくなっていった。

そして数年前、彼の名前を再び聞くようになった。同じ名を騙る偽物というのが当初の所見であったが、遠距離からの射撃技術とその正体を悟らせない攪乱技術はまさしく彼そのものであり、次には「伝説の殺し屋の再来か」という風潮が高まった。しかし、よくよく彼についてのわずかな足取りをたどってみると、以前は少なくとも一撃で仕事を終わらせていたはずの彼が、ターゲットを殺すためにニ発の弾丸を使うようになったこと、そして以前は周到な準備と高水準な経験によって捜査で足取りを悟らせなかったはずの彼がオーヴァードのエフェクトによって雑に捜査の魔の手から逃げ続けている点など様々な差異がみられ、何より彼がボイスチェンジャー越しにおちゃらけて語った「俺はニ代目だから」という発言がこの復活で沸き立つ裏社会の話題の一つを終わらせた。

現在彼は、日本に身を寄せているらしい。世界を揺るがすオーヴァード界の大物が次々と集結しているのだから当然といえるだろう。また、あまりに彼のところまで依頼のメッセージを届けられる猛者がいない、もしくは彼にあまり興味がない日本において彼は求職気味であり、彼のほうから売り込みの電凸をすることもあるらしい。そんなこんなで彼は実質的なUGN側のイリーガルとなっているわけだが、その正体から何まで不明の彼が次に狙うのは誰かを予想するのは不可能に近い。